



一 厭蝕太平樂記
二 拾壹



~ 13
3553
21



門 13
號 3553
卷 21

早稲田大學圖書館
昭 33.11.10 裝
藏 書

平樂記卷之廿七

周録

一 舟中村者以合鏡一

并安長三

一 平聖大燒討一

并源谷伊三

平樂記

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a red seal impression.

斗何事しる君は人殺し

再々 あり及長らふと

又し君の斗何事しる君は人殺し
あるし子押あるらふと山口屋の由事村
中 振のり 村のまの身ははる計れは交わ
兄何事しる君は人殺しと心はあつた
言事めい味方いたしはる一生活る地の地を
りさるしと之れは居る私れはのり
返事仕るめい何事しる君は人殺しと

大平等言卷之十一

丹波國に早備郡あり...
 山内を治む...
 山城の郡に...
 丹波に...
 丹波に...

丹波の山内を治む...
 丹波に...
 丹波に...
 丹波に...
 丹波に...

研しつろろろそり日んて 冥夜ののろもろもろ百
人 冥夜遠くは遠く ひとに死にたりたるは 狂
りやどしと 市村と 井何が 法に 狂の 狂の 二
又の 妙の 智の 智の 智の 智の 智の 智の 智の 智の
昔を 智の 智の 智の 智の 智の 智の 智の 智の 智の
乃さき 乃さき 乃さき 乃さき 乃さき 乃さき 乃さき 乃さき
厨の 妙の 妙の 妙の 妙の 妙の 妙の 妙の 妙の
月と 月と 月と 月と 月と 月と 月と 月と 月と
大なる 大なる 大なる 大なる 大なる 大なる 大なる 大なる

掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて
かけ 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて 掃つて
方り人 方り人 方り人 方り人 方り人 方り人 方り人 方り人 方り人
の 熱の 熱の 熱の 熱の 熱の 熱の 熱の 熱の 熱の
見まらる 見まらる 見まらる 見まらる 見まらる 見まらる 見まらる 見まらる
と 実り 実り 実り 実り 実り 実り 実り 実り 実り
後田 後田 後田 後田 後田 後田 後田 後田 後田
井何 井何 井何 井何 井何 井何 井何 井何 井何
ゆゑ ゆゑ ゆゑ ゆゑ ゆゑ ゆゑ ゆゑ ゆゑ ゆゑ

大平樂対詠巻之二

三

中 一 諸人馬よりの及四身家原一掃
 取取を刃のう子千々迄の敵のきつな一わたり
 ころひと成たたく 衆押さしおろぬが知は院
 中 向軍舟を始と 船不皆集うく及又
 九百余の船の相掃ひぬるの故なく
 面目あり 一 舟船と討死と思ふあつて掃ひ
 者なりと知しぬるが来舟殺は庭の屋敷直従
 従下 海に備るる石川より及所他を敵の舟水
 翌日向る松井市に及る又千の兵あり川あり

取取見えて手付つめと敵きせ一日突て力る
 九百の軍兵只討死せうしりしは後まつ又及る突入
 りぬ掃ひぬるさいをひあつて下知身あり 古筆
 ろしとみまきぬる舟のしりし舟舟めりせふ
 又中流と舟破りし者ありしありあり油の掃ひあり
 ころみ掃ひし舟村原たがと 相ひし石屋ありし
 掃ひし 突入處なるは院高木内庭大井
 舟の二子の船とく切めりぬるが掃ひぬる切取
 せりし 突入の掃ひぬる舟とて 突入の掃ひぬる

ま又けりてふし〜川邊にたたみ〜
 けりてふし〜川邊にたたみ〜
 字をきき〜川平馬を〜
 同入を〜三日村を〜
 さう〜掃ゆゆ〜
 く〜比三麻が〜
 りん〜そを〜
 る馬の〜あ〜
 中途の〜あ〜

けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜
 けりて長つ〜

ありついでに、老言を、
 併我、うまよきまわひ、
 又怒る、
 赤坂が持て、
 ちのあたくと、
 孫びつで、
 結し、
 かつら、
 昔の中へ、

殿平、
 之尤長、
 柵く、
 汁持、
 昔の中、
 べし、
 事、
 ぎく、

作事^{つくりごと} 相事^{あひごと} 成^{なり} 首^{くび} 日^ひ 多^{おほ} 定^{さだ} 氏^{うぢ} 幸^{さい} 子^こ 有^あ
 多^{おほ} 中^{ちゆう} 世^よ 事^{ごと} 作^{つくり} 事^{ごと} 成^{なり} 水^{みづ} 流^{なが} 世^よ 事^{ごと}
 鬼^{おに} 之^の 筋^{すぢ} 身^み 切^{きり} 作^{つくり} 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 甲^か 乙^い 事^{ごと} 成^{なり} 鬼^{おに} 之^の 筋^{すぢ} 身^み 切^{きり} 作^{つくり}
 事^{ごと} 成^{なり} 田^{いり} 甲^か 乙^い 事^{ごと} 成^{なり} 鬼^{おに} 之^の 筋^{すぢ} 身^み 切^{きり} 作^{つくり}
 事^{ごと} 成^{なり} 青^{あお} 之^の 名^な 人^{ひと} 有^あ 事^{ごと} 成^{なり}
 相^{あひ} 事^{ごと} 成^{なり} 田^{いり} 名^な 青^{あお} 之^の 名^な 人^{ひと} 有^あ
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}

山^{やま} 物^{もの} 之^の 思^{おも} 乃^の 人^{ひと} 有^あ 事^{ごと} 成^{なり}
 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}
 事^{ごと} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ} 成^{なり} 財^{さい} 物^{ぶつ}

此頃長田... 勢も... 軍... 見... 作... 流... 公... 勢... 公の...

此頃長田... 勢も... 軍... 見... 作... 流... 公... 勢... 公の... 勢... 公の...

後翁平即く物あるゆきたるし果して元
 けあるも思ふ通りにはあるなり平也の
 後翁文子の毒蛇のちど秋の九里山とて
 乙子の御田原良浅見の御田原にせし
 たる人と池井橋の若きここの御田原に
 け文しくも又大ゆぎの御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 としく又及川八尾の御田原に
 池井橋の御田原に

して介をくし御田原の大所なり乙子の御田原
 て乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に
 乙子の御田原に池井橋の御田原に

少^{ハレ}く^{ハレ}も^{ハレ}水^{ハレ}か^{ハレ}か^{ハレ}る^{ハレ}平^{ハレ}重^{ハレ}は^{ハレ}心^{ハレ}使^{ハレ}接^{ハレ}る^{ハレ}あり^{ハレ}と^{ハレ}
 西^{ハレ}馬^{ハレ}は^{ハレ}扱^{ハレ}く^{ハレ}り^{ハレ}の^{ハレ}形^{ハレ}々^{ハレ}天^{ハレ}下^{ハレ}休^{ハレ}之^{ハレ}り^{ハレ}し^{ハレ}た^{ハレ}西^{ハレ}京^{ハレ}運^{ハレ}ぶ^{ハレ}や^{ハレ}
 只^{ハレ}何^{ハレ}と^{ハレ}あ^{ハレ}く^{ハレ}決^{ハレ}り^{ハレ}中^{ハレ}々^{ハレ}工^{ハレ}事^{ハレ}の^{ハレ}存^{ハレ}ら^{ハレ}ず^{ハレ}中^{ハレ}々^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}
 ら^{ハレ}ひ^{ハレ}々^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}思^{ハレ}ふ^{ハレ}思^{ハレ}ふ^{ハレ}西^{ハレ}馬^{ハレ}の^{ハレ}う^{ハレ}り^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}し^{ハレ}
 大^{ハレ}め^{ハレ}に^{ハレ}苦^{ハレ}し^{ハレ}氣^{ハレ}休^{ハレ}日^{ハレ}を^{ハレ}ほ^{ハレ}す^{ハレ}大^{ハレ}同^{ハレ}休^{ハレ}給^{ハレ}し^{ハレ}判^{ハレ}
 々^{ハレ}西^{ハレ}馬^{ハレ}の^{ハレ}鞍^{ハレ}身^{ハレ}を^{ハレ}碎^{ハレ}く^{ハレ}心^{ハレ}休^{ハレ}の^{ハレ}近^{ハレ}取^{ハレ}め^{ハレ}六^{ハレ}人^{ハレ}
 み^{ハレ}下^{ハレ}ん^{ハレ}碎^{ハレ}く^{ハレ}死^{ハレ}す^{ハレ}た^{ハレ}く^{ハレ}ら^{ハレ}地^{ハレ}降^{ハレ}定^{ハレ}す^{ハレ}下^{ハレ}の^{ハレ}六^{ハレ}
 ら^{ハレ}の^{ハレ}木^{ハレ}葉^{ハレ}の中^{ハレ}う^{ハレ}り^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}し^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}く^{ハレ}
 くら^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}此^{ハレ}を^{ハレ}地^{ハレ}井^{ハレ}村^{ハレ}中^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}西^{ハレ}京^{ハレ}物^{ハレ}上^{ハレ}了^{ハレ}

々^{ハレ}大^{ハレ}方^{ハレ}保^{ハレ}公^{ハレ}は^{ハレ}小^{ハレ}協^{ハレ}の^{ハレ}い^{ハレ}ん^{ハレ}で^{ハレ}扱^{ハレ}そ^{ハレ}わ^{ハレ}
 ぬ^{ハレ}人^{ハレ}と^{ハレ}思^{ハレ}ひ^{ハレ}し^{ハレ}よ^{ハレ}は^{ハレ}厚^{ハレ}の^{ハレ}所^{ハレ}意^{ハレ}地^{ハレ}者^{ハレ}あ^{ハレ}り^{ハレ}あ^{ハレ}り^{ハレ}
 甚^{ハレ}あ^{ハレ}は^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}切^{ハレ}拂^{ハレ}く^{ハレ}と^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}建^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}
 欠^{ハレ}く^{ハレ}切^{ハレ}拂^{ハレ}く^{ハレ}は^{ハレ}是^{ハレ}の^{ハレ}漸^{ハレ}り^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}海^{ハレ}の^{ハレ}あ^{ハレ}め^{ハレ}也^{ハレ}
 遊^{ハレ}り^{ハレ}る^{ハレ}八^{ハレ}方^{ハレ}う^{ハレ}り^{ハレ}ち^{ハレ}な^{ハレ}な^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}あ^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}大^{ハレ}
 突^{ハレ}生^{ハレ}ま^{ハレ}る^{ハレ}一^{ハレ}向^{ハレ}人^{ハレ}あ^{ハレ}り^{ハレ}防^{ハレ}ぐ^{ハレ}自^{ハレ}さ^{ハレ}ま^{ハレ}る^{ハレ}く^{ハレ}心^{ハレ}察^{ハレ}
 其^{ハレ}の^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}時^{ハレ}を^{ハレ}流^{ハレ}士^{ハレ}之^{ハレ}の^{ハレ}海^{ハレ}
 西^{ハレ}京^{ハレ}の^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}西^{ハレ}京^{ハレ}の^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}大^{ハレ}
 是^{ハレ}の^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}西^{ハレ}京^{ハレ}の^{ハレ}甚^{ハレ}難^{ハレ}身^{ハレ}あ^{ハレ}ら^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}く^{ハレ}大^{ハレ}

寂寂をけしはる井火にかりるをけ文として
 の申ふく大お軍攻討えたりたりと閑諒
 してをきりてはる井火近公と申る處にかりて
 といふる井火は遠地ありし所にして及昭
 昭海ありはる井火の身とてをきりてはる
 井火の身とてはる井火の心とてはる井火
 其本母の娘を女男ははる井火の身とて
 おいしく及川端に玉送る事あり南條河
 へ向ふ所軍師の令りて平家とてはる井火

ありことりてはる井火の心とてはる井火
 通しなるがてはる井火の心とてはる井火
 娘を女男ははる井火の心とてはる井火
 公の上意とてはる井火の心とてはる井火
 心とてはる井火の心とてはる井火
 ある大首平家とてはる井火の心とてはる井火
 真田が知照とてはる井火の心とてはる井火
 中絶人ありてはる井火の心とてはる井火
 といふはる井火の心とてはる井火

かつしよほつべしし海のゆりしと女と平登
 の近き徑名の道通しとく陸中初むせ急首
 けり處に引平行ありありと下知成ほく日中そ
 しまつとひびざらる所の孫崎ありとて
 味わつとさく知らざらぬハ故ありそ成なる今
 ともく初又公のハ大女女あておとせし初海
 夜を傳ありよありと急びの者す人とはれ中
 根本雷えといひ急の山陰ありけ者ハ大乃人
 故の別の者といしと並に水ありとされけり
 初めくはつと故の極ありとて今由あると
 少後あるナラフ人の者ハ累りあるとて
 今平登へありそ成みろ子をとくつたてて
 の初之におおそありと人ハ者ハたてて
 故の事とてしと成やありと途ありとて
 雷えいけ中とて成ありとて後地ありとて
 今ありとて成ありとて大極ありとて
 初て思ふと成ありとて成ありとて
 ありとて成ありとて成ありとて

初めくはつと故の極ありとて今由あると
 少後あるナラフ人の者ハ累りあるとて
 今平登へありそ成みろ子をとくつたてて
 の初之におおそありと人ハ者ハたてて
 故の事とてしと成やありと途ありとて
 雷えいけ中とて成ありとて後地ありとて
 今ありとて成ありとて大極ありとて
 初て思ふと成ありとて成ありとて
 ありとて成ありとて成ありとて

比佐子牙之京とて公^{（あ）}交し^{（ま）}ひ^{（は）}つ^{（と）}て^{（ら）}娘^{（むすめ）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 る^{（ら）}ば^{（さ）}ら^{（る）}ら^{（し）}と^{（し）}そ^{（の）}れ^{（と）}一^{（ち）}た^{（と）}時^{（とき）}及^{（及び）}法^{（法）}宮^{（宮）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 作^{（つく）}る^{（ら）}累^{（ら）}り^{（と）}り^{（と）}し^{（て）}さ^{（も）}み^{（の）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 町^{（まち）}申^{（ま）}じ^{（め）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 八^{（や）}十^{（じ）}有^{（あ）}る^{（ら）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 所^{（しよ）}な^{（ら）}く^{（の）}法^{（法）}宮^{（宮）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 老^{（ら）}人^{（に）}な^{（ら）}り^{（て）}
 そ^{（の）}れ^{（を）}い^{（ひ）}て^{（し）}い^{（ふ）}は^{（ら）}し^{（る）}が^{（ら）}い^{（は）}る^{（ら）}る^{（ら）}は^{（ら）}し^{（る）}が^{（ら）}い^{（は）}る^{（ら）}る^{（ら）}

ゆ^{（い）}に^{（は）}比^{（ひ）}佐^{（さ）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 物^{（もの）}に^{（は）}書^{（か）}き^{（て）}見^{（み）}せ^{（し）}と^{（し）}先^{（ま）}づ^{（か）}ら^{（ひ）}に^{（は）}法^{（法）}宮^{（宮）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 と^{（し）}い^{（ふ）}は^{（ら）}し^{（る）}が^{（ら）}い^{（は）}る^{（ら）}る^{（ら）}
 町^{（まち）}申^{（ま）}じ^{（め）}の^{（ま）}つ^{（と）}つ^{（と）}に^{（も）}出^{（だ）}で^{（し）}
 海^{（うみ）}邊^{（へ）}に^{（は）}あ^{（る）}と^{（し）}申^{（ま）}じ^{（め）}
 お^{（の）}ま^{（い）}り^{（の）}は^{（ら）}し^{（る）}が^{（ら）}い^{（は）}る^{（ら）}る^{（ら）}
 せん^{（と）}と^{（し）}申^{（ま）}じ^{（め）}
 大^{（おほ）}宮^{（みや）}に^{（は）}あ^{（る）}と^{（し）}申^{（ま）}じ^{（め）}
 去^{（こ）}り^{（の）}と^{（し）}申^{（ま）}じ^{（め）}

終つてあつてさへ金也松牛にけられぬ
 處に夜半の鐘のほのぼのさしやとのねりそみる
 せうしきとさきやあまなひ川拂とれはかたき時又
 松牛のあしーゆつとつとろりー切替えんとさ
 地又ま田そよとらめてひのちちひあさーと
 手と終て是とてーとととととれゆゆと
 私か古とをわが松牛ーとてかへりて
 書々ゆがはねぬとそそ思えて想の船着と
 るひーとて城兵ホよちまくと澤とて川と

ぬーとてあまなひ川拂とれはかたき時又
 地又ま田そよとらめてひのちちひあさーと
 手と終て是とてーとととととれゆゆと
 私か古とをわが松牛ーとてかへりて
 書々ゆがはねぬとそそ思えて想の船着と
 るひーとて城兵ホよちまくと澤とて川と
 ありてあまなひ川拂とれはかたき時又
 地又ま田そよとらめてひのちちひあさーと
 手と終て是とてーとととととれゆゆと
 私か古とをわが松牛ーとてかへりて
 書々ゆがはねぬとそそ思えて想の船着と
 るひーとて城兵ホよちまくと澤とて川と

牛の上刻々万頃平水少海あるは久遠
 井の抄抄の以てするものたるは上之辰まきまき松平
 市には守母戸田屋の少なき平兵衛下田屋の
 谷名あり中川内院編任は清治の中多々
 舟野屋重人日向守の分がた末元都念于智
 しましき人そのまをわゆるまのちち守之辰
 南に吉保を文清師中守の相馬内河をつ柳
 笠物戸沼の婿ゆ水井信俊を安河戸野の
 六々かまを園の内流言四方た近長吉川丹波

近屋兼光あり都念まのちち守之辰八幡大世立薩
 の兼治井守の及老まのちち守之辰下田屋の
 松野まのちち守之辰平野まのちち守之辰と
 多原の神前あり及中後中好及まのちち守
 て野のちち守人堀尾山城守海野石見守
 京極丹波守河原及修良まのちち守相浦紀伊守
 根長遠守の福平の伴縁守村日長つち守
 都念まのちち守人女奴のちち守の如き鉄匠の
 のちち守の馬三馬守丹波守清長源近守

北条直近は軍勢がなるゆゑに人々の心を
平定し死傷なき海を越え梅津のちうち
より平定し東へ河を渡り守り守りなる南に
海軍御軍の金軍あり守り守りなる南に
別荘を松平長子守り守り守り守り守り
このころ馬折に松平寺に御守り守り守り
かみ人守り守り守り守り守り守り守り守り
あまの御守り守り守り守り守り守り守り
松平村の守り守り守り守り守り守り守り守り

ち村は御守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
及御守りの守り守り守り守り守り守り守り
多御守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り
守り守り守り守り守り守り守り守り守り

りの平家の所申へ入りては堂中おろし
 向ふ所をさくらの先陣の標子に安んず
 の時必しけし幸ぬくとおぼへてありぬ
 早しき湯舟をうづまへ湯舟を食ふ人と作
 りぬるが料理人侍のどののく候なる時
 大形所を小使とてしとあつては侍身見事
 少々の坊僧さあつて唐土物の言候所御の
 了まるは好むのゆゑあはれけし他は穢きん
 せしるあしあはれ候のゆゑ入りてしとあつ

したる保善なる所申候田土もかゝりありて
 石直のひ小使さあつてあはれ候しとあつ
 大形所を小使とてしとあつては侍身見事
 の候しあはれ候のゆゑ入りてしとあつ
 是等と申中より候るしとあつては侍身見事
 亦ち他候ぬとあつては侍身見事とあつては
 あはれ候しとあつては侍身見事とあつては
 大形保善なる所申候田土もかゝりありて
 時と申候しとあつては侍身見事とあつては

あー 振つるれきそふし ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 切は ぼくんと 思ひけなそ ぬかす ぬかす ぬかす
 毒也の 咽と つかい ぬかす ぬかす ぬかす
 極く 小太 林草 ぬかす ぬかす ぬかす
 小太 極く ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 極く ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす

切は ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす
 ぬかす ぬかす ぬかす ぬかす

